

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
子どもの発育発達と公衆浴場における混浴年齢に関する研究（19CA2029）

分担研究報告書

浴場における子どもの混浴経験と意識に関する調査研究

研究分担者 杉崎 弘周

新潟医療福祉大学 准教授

研究要旨：本研究では、公衆浴場における混浴について、当事者である子どもの経験や認識の実態を明らかにすることを目的とした。水着なしで異性浴場に入浴した経験と認識について、保護者の同意の下で全国の7歳から12歳まで男女1,500名に調査を実施した。水着なしでの異性混浴体験は、ある44.6%（男子55.0%、女子33.3%）ない40.8%（男子28.6%、女子53.9%）、覚えていない14.6%（男子16.3%、女子12.8%）であった。水着なしで異性浴場に入った最終年齢は5歳の20.0%がピークで、6歳が14.1%、7歳が13.0%と続き、覚えていないが23.3%であった。水着なしでの異性混浴をはずかしいと思いはじめた年齢では、6歳の27.0%、7歳の21.2%で20%を超えており、5歳の16.1%、8歳の13.4%がこれに続いた。最後に水着なしで異性浴場に入浴した年齢、水着なしでの異性入浴をはずかしいと思いはじめた年齢とも過半数が5歳から8歳に集中していたことが当事者への調査によって明らかとなった。

研究協力者

植田誠治（聖心女子大学 教授）

小倉加恵子（国立研究開発法人国立成育医療研究センター 部長）

佐見由紀子（東京学芸大学 准教授）

どもの発達発育に合っていないことやこれから増加する訪日外国人観光客に対して公衆浴場での子どもとの混浴が理解できないことが問題である。

そこで本研究では、公衆浴場における子どもの混浴についての意識を明らかにすることを目的とした。

A．調査目的

公衆浴場は、「温湯、潮湯又は温泉その他を使用して、公衆を入浴させる施設」と定義されている[1]。350円から400円程度の入浴施設である公衆浴場を一般的には銭湯という。公衆浴場は、日本の伝統文化であり、それと同時に日本では男女が水着等を付けず一緒に入浴する混浴という文化も楽しまれている。

公衆浴場法については、昭和23年に出された「公衆浴場法」において設備や認可については定められている。これに加えて、風紀に必要な措置を各自治体が条例で定めることとされている。混浴やその年齢制限はこの風紀に必要な措置に含まれるものである。現代における子

B．調査方法

調査の対象は、調査を委託した（株）日本能率協会総合研究所に登録しているリサーチパネルのうち、7歳から12歳までの子どもがいる者、同意事項に同意できる者とした。

日本を北海道東北、関東、北陸甲信越、東海、関西、中国、四国、九州の8つの地域に分け、2015年国勢調査の人口構成比に応じた比率を算出して回収目標値を設定した。また、居住地による比率を優先し、子どもの性別と年齢は比率が均等に近くなるようにした。

本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承

認を経て2020年2月に実施された。

C . 調査結果

1) 調査対象

対象候補者7,764名に対して、EメールによってURLを送付して依頼したところ、2,992名から応募があった。このうち、子どもの年齢に関する条件に該当しない者、同意事項に同意できない者をあわせて1,492名除外した。また、居住地域、子どもの年齢、子どもの性別の属性によって設定した目標値に達した時点でも、それら属性からの回答を打ち切った。以上の手続きにより、1,500名を対象に調査を実施した。さらに、親による回答と子どもによる回答をそれぞれ求めた。

2) 回答者の属性

回答者の地域別の割合は、北海道・東北10.7%(男子10.7%、女子10.6%)、関東32.4%(男子32.3%、女子32.5%)、北陸・甲信越6.7%(男子6.6%、女子6.7%)、東海12.7%(男子12.6%、女子12.7%)、関西16.4%(男子16.4%、女子16.4%)、中国6.0%(男子6.0%、女子6.0%)、四国2.9%(男子3.0%、女子2.9%)、九州12.3%(男子12.3%、女子12.3%)であった。

対象の子どもの年齢では、7歳16.0%(男子16.8%、女子15.1%)、8歳17.1%(男子15.5%、女子18.8%)、9歳16.3%(男子17.1%、女子15.4%)、10歳19.5%(男子19.8%、女子19.1%)、11歳16.6%(男子15.9%、女子17.3%)、12歳14.5%(男子14.9%、女子14.2%)であった。

3) 親への調査結果

回答の対象とする子どもの性別は男子767名、女子733名であったが、お子様の浴場の利用経験があると回答したのは92.0%(男子93.4%、女子90.6%)であった。そのうち、水着

なしで異性浴場の利用は55.4%(男子67.7%、女子42.2%)であった。

水着なしでの異性浴場の最終利用年齢は、1歳0.1%(男子0.2%、女子0%)、2歳1.0%(男子0.6%、女子1.8%)、3歳3.8%(男子4.1%、女子3.2%)、4歳14.4%(男子14.4%、女子14.3%)、5歳12.2%(男子11.8%、女子12.9%)、6歳23.5%(男子24.1%、女子22.5%)、7歳20.1%(男子20.4%、女子19.6%)、8歳12.0%(男子13.0%、女子10.4%)、9歳5.6%(男子4.9%、女子6.8%)、10歳2.5%(男子2.3%、女子2.9%)、11歳1.7%(男子1.0%、女子2.9%)、12歳0.1%(男子0%、女子0.4%)、13歳0.3%(男子0.2%、女子0.4%)、14歳2.6%(男子2.9%、女子2.1%)であった。

4) 子どもへの調査結果

浴場の利用経験があると回答した親の子どもに対して、水着なしでの異性混浴体験をたずねたところ、ある44.6%(男子55.0%、女子33.3%)ない40.8%(男子28.6%、女子53.9%)、覚えていない14.6%(男子16.3%、女子12.8%)であった。

水着なしで異性浴場に入った最終年齢では、「1歳」が0.7%(男子0.8%、女子0.5%)、「2歳」が2.0%(男子1.0%、女子3.6%)、「3歳」が8.3%(男子7.9%、女子9.0%)、「4歳」が9.6%(男子9.6%、女子9.5%)、「5歳」が20.0%(男子21.1%、女子18.1%)、「6歳」が14.1%(男子14.5%、女子13.6%)、「7歳」が13.0%(男子12.9%、女子13.1%)、「8歳」が5.4%(男子4.3%、女子7.2%)、「9歳」が1.3%(男子1.8%、女子0.5%)、「10歳」が2.0%(男子1.5%、女子2.7%)、「11歳」が0.3%(男子0%、女子0.9%)、「12歳」が0.2%(男子0.3%、女子0%)、覚えていないが23.3%(男子24.4%、女子21.3%)であった。

水着なしで異性浴場に入った経験のある者（n=1094）に、はずかしいと思いだめた年齢をたずねたところ、「0歳」が0.3%（男子0.2%、女子0.4%）、「1歳」が0.1%（男子0.2%、女子0%）、「2歳」が0.5%（男子0.8%、女子0.2%）、「3歳」が2.7%（男子2.8%、女子2.5%）、「4歳」が6.2%（男子6.0%、女子6.4%）、「5歳」が6.1%（男子15.6%、女子16.5%）、「6歳」が7.0%（男子30.3%、女子23.8%）、「7歳」が21.2%（男子20.9%、女子21.5%）、「8歳」が13.4%（男子12.6%、女子14.2%）、「9歳」が7.0%（男子5.8%、女子8.2%）、「10歳」が4.0%（男子3.4%、女子4.6%）、「11歳」が1.4%（男子1.3%、女子1.4%）、「12歳」が0.2%（男子0.2%、女子0.2%）であった。

水着なしで異性浴場に入ることがはずかしいと思わない者（n=286）に、はずかしいと思うようになる年齢をたずねたところ、「7歳」が7.3%（男子10.3%、女子2.0%）、「8歳」が10.1%（男子12.0%、女子6.9%）、「9歳」が9.8%（男子7.1%、女子14.7%）、「10歳」が22.0%（男子21.7%、女子22.5%）、「11歳」が9.1%（男子8.2%、女子10.8%）、「12歳」が17.1%（男子17.9%、女子15.7%）、「13歳以上」が8.0%（男子7.1%、女子9.8%）、はずかしいと思うようになることはないが16.4%（男子15.8%、女子17.6%）であった。

異性浴場に入っている異性を見たことがあったのは60.8%（男子53.6%、女子68.5%）であった。

D．考察

子どもに浴場の利用経験があると回答したのは調査時点で93.4%であり、この中で、混浴をさせた経験があったのは55.4%であった。

水着なしで異性浴場を利用した経験を子どもにたずねると、44.6%に利用経験があり、14.

6%が覚えていないとしており、覚えていないくらい低年齢での利用であると考えられる。子どもの記憶による異性浴場への入力の最終年齢は、5歳と回答した割合が最も高く、次いで6歳、7歳と続いた。男女とも似た傾向であるが、2歳や3歳で異性浴場の利用をやめている女子の割合は僅かに高かった。また、覚えていないという回答も23.3%あった。はずかしいと思いだめた年齢は、6歳が最も高い割合で、7歳がこれに続き、小学校入学の時期と重なる結果であった。

E．結論

子どもが水着を着ないで異性浴場を最後に利用した年齢、はずかしいと思いだめる年齢が5歳から8歳あたりに集中していることが当事者へ調査によって明らかとなった。子どもの異性浴場混浴についてさらなる検討が必要であろう。

F．研究発表

- 1．論文発表 0件
- 2．学会発表 0件

G．知的財産の出願・登録状況

なし

表1 回答者の居住地 (N=1500)

北海道・東北	10.7%
関東	32.4%
甲信越	6.7%
東海	12.7%
関西	16.4%
中国	6.0%
四国	2.9%
九州沖縄	12.3%

表2 回答の対象となった子どもの年齢と性別 (N=1500)

7-9歳の男子	25.3%
10-12歳の男子	25.9%
7-9歳の女子	24.1%
10-12歳の女子	24.7%

表3 子どもの浴場の利用有無 (N=1500)

あり	92.0%
なし	8.0%

表4 子どもの異性浴場の利用有無 (N=1380)

	合計	%	男子	%	女子	%
ある	615	44.6%	394	55.0%	221	33.3%
ない	563	40.8%	205	28.6%	358	53.9%
覚えていない	202	14.6%	117	16.3%	85	12.8%

表5 水着なしで異性浴場に入った最終年齢 (N=615)

	合計	%	男子	%	女子	%
0歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1歳	4	0.7%	3	0.8%	1	0.5%
2歳	12	2.0%	4	1.0%	8	3.6%
3歳	51	8.3%	31	7.9%	20	9.0%
4歳	59	9.6%	38	9.6%	21	9.5%
5歳	123	20.0%	83	21.1%	40	18.1%
6歳	87	14.1%	57	14.5%	30	13.6%
7歳	80	13.0%	51	12.9%	29	13.1%
8歳	33	5.4%	17	4.3%	16	7.2%
9歳	8	1.3%	7	1.8%	1	0.5%
10歳	12	2.0%	6	1.5%	6	2.7%
11歳	2	0.3%	0	0.0%	2	0.9%
12歳	1	0.2%	1	0.3%	0	0.0%
覚えていない	143	23.3%	96	24.4%	47	21.3%

表6 はずかしいと思い始めた年齢 (N = 1094)

	合計	%	男子	%	女子	%
0歳	3	0.3%	1	0.2%	2	0.4%
1歳	1	0.1%	1	0.2%	0	0.0%
2歳	5	0.5%	4	0.8%	1	0.2%
3歳	29	2.7%	15	2.8%	14	2.5%
4歳	68	6.2%	32	6.0%	36	6.4%
5歳	176	16.1%	83	15.6%	93	16.5%
6歳	295	27.0%	161	30.3%	134	23.8%
7歳	232	21.2%	111	20.9%	121	21.5%
8歳	147	13.4%	67	12.6%	80	14.2%
9歳	77	7.0%	31	5.8%	46	8.2%
10歳	44	4.0%	18	3.4%	26	4.6%
11歳	15	1.4%	7	1.3%	8	1.4%
12歳	2	0.2%	1	0.2%	1	0.2%

表7 はずかしいと思うようになる年齢(n=286)

	合計	%	男子	%	女子	%
7歳	21	7.3%	19	10.3%	2	2.0%
8歳	29	10.1%	22	12.0%	7	6.9%
9歳	28	9.8%	13	7.1%	15	14.7%
10歳	63	22.0%	40	21.7%	23	22.5%
11歳	26	9.1%	15	8.2%	11	10.8%
12歳	49	17.1%	33	17.9%	16	15.7%
13歳以上	23	8.0%	13	7.1%	10	9.8%
はずかしいと思うようになることはない	47	16.4%	29	15.8%	18	17.6%